

2025年度（2026年3月期） 決算説明会

2026年5月13日

住友ファーマ株式会社 代表取締役社長 木村 徹

■ 将来予測に関する事項

- 本資料には、当社グループに関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、発表日現在において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しています。
- したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標などが記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通しなどが記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。
- 医薬品等（開発中のものを含む）に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

2025年度決算概要

2025年度決算概要

2025年度経営成績（コアベース）

金額単位：億円

	2024年度 実績	2025年度 実績	増減			2025年度 3/2予想
			金額	うち 為替影響	%	
売上収益	3,988	4,533	545	△53	13.7	4,490
売上原価	1,532	1,964	432	△9	28.2	
売上総利益	2,456	2,569	112	△44	4.6	
販売費及び一般管理費	1,677	1,593	△84	△14	△5.0	
研究開発費	485	439	△45	△4	△9.4	
その他（コア内）	137	523	386	—		
コア営業利益	432	1,059	628	△26	145.4	1,070
調整項目（△：損）	△143	14	158			
営業利益	288	1,073	785		272.6	1,080
金融収益・費用	△112	△70	42			
税引前当期利益	176	1,003	827		469.8	
法人所得税	△60	△65	△5			
親会社の所有者に 帰属する当期利益	236	1,069	832		352.2	1,020

【平均レート】

2024年度実績：1\$ =152.62円 1元=21.11円
 2025年度実績：1\$ =150.67円 1元=20.12円
 2025年度予想：1\$ =150.00円 1元=20.12円

【期末日レート】

2025年3月末：1\$ =149.53円 1元=20.59円
 2026年3月末：1\$ =159.90円 1元=20.74円

- 売上収益
オルゴビクス、ジェムテサの伸長、販売マイルストーン等により増加
- 販売費及び一般管理費ならびに研究開発費
事業構造改善効果の発現やアジア事業の一部譲渡、および再生・細胞医薬事業の再編等により減少
- その他（コア内）の主な内訳
（前期）再生・細胞医薬事業の譲渡
（当期）アジア事業の一部譲渡（490億円）
- 調整項目の主な内訳
（前期）日本および北米の事業構造改善費用

2025年度決算概要

主要製品売上収益（北米）

	2024年度 実績	2025年度 実績	増減額	2024年度 実績	2025年度 実績	増減		
						金額	うち 為替影響	%
北米	百万ドル			億円				
オルゴビクス	544	1,029	484	831	1,550	719	△20	86.6
マイフェンブリー	84	96	12	128	144	16	△2	12.6
ジェムテサ	431	637	206	658	960	302	△12	46.0
リサイミック	45	42	△3	68	63	△5	△0	△7.1
アプティオム	258	99	△159	394	149	△245	△2	△62.1
その他	80	56	△24	122	80	△42	△1	△34.3
輸出、一時金収入等 [※]	208	287	78	318	433	115	△7	36.1
合計	1,650	2,245	595	2,518	3,379	861	△45	34.2

※ 主な一時金収入等

2024年度 実績	ファイザー社との提携に関する繰延収益	\$171M	2025年度 実績	ファイザー社との提携に関する繰延収益	\$88M
				オルゴビクスの販売マイルストーン (売上5億ドル達成)	\$100M

【平均レート】
2024年度実績：1\$ =152.62円
2025年度実績：1\$ =150.67円

- オルゴビクスとジェムテサは前期比で大きく伸長
- アプティオムは独占販売期間終了により減収
- オルゴビクスの販売マイルストーンを計上

2025年度決算概要

■主要製品売上収益（日本）

金額単位：億円

	2024年度 実績	2025年度 実績	増減	
			金額	%
日本				
ラツータ	132	137	5	4.1
ツイミーグ	76	106	30	39.0
メトグルコ	73	74	1	1.3
エクア・エクメット	249	87	△162	△64.9
ロナセンテープ	46	50	4	8.2
ゼプリオン・ゼプリオンTRI	—	32	32	—
AG品	114	121	7	5.9
その他	229	226	△3	△1.4
輸出、一時金収入等	79	90	11	14.4
合計	998	924	△75	△7.5

- ツイミーグは引き続き伸長
- エクメットは独占販売期間終了により減少
- ゼプリオン/ゼプリオンTRIの自社流通開始

(注) 各品目別の売上収益は、仕切価ベースで記載

2026年度業績予想

2026年度業績予想

■ 「力強い住友ファーマ」に向けたBoost 2028

抜本的構造改革によりV字回復を達成。オルゴビクス・ジェムテサの更なる売上成長と次世代成長エンジンの育成により、「力強い住友ファーマ」へ向け、Boost（加速）させるフェーズへ

規模適正化の遅れ・損益悪化

取得製品ポテンシャルの
過大評価

新薬候補品の開発失敗

ラツータLOEの到来

価値創造サイクルの再構築
Reboot 2027

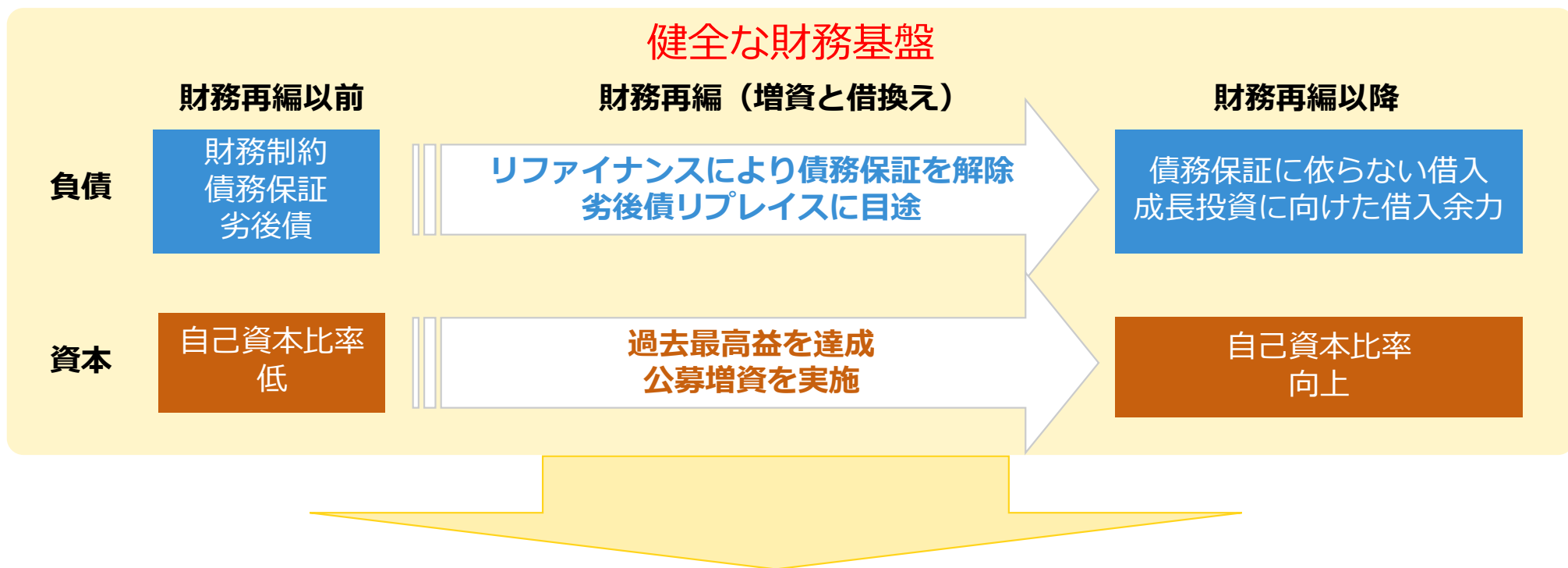
- 1 抜本的構造改革の実行
 - 合理化・選択と集中
 - R&D投資戦略の見直し
- 2 基幹3製品の拡販



価値「創造」から価値「提供」へ
Boost 2028

- 1 オルゴビクス・ジェムテサの更なる売上成長
- 2 がん2品目の最速上市
- 3 次世代成長エンジンの育成
- 4 財務基盤の強化

■健全な財務基盤により、財務規律を重視しつつ、中長期の成長投資へ配分



研究開発投資

2026年度予想 510億円

<主な内容>

- ・がん2品目の最速上市・価値拡大
- ・次世代の収益基盤育成（CNS・感染症）

設備投資/投融資

2026年度予想 120億円

<主な内容>

- ・既存事業の強化（生産、品質管理体制 他）
- ・RACTHERA社、S-RACMO社への投融資

株主還元

2026年度予想 未定

今後の業績動向を踏まえて決定

<主な判断要素>

- ・キャッシュフロー
- ・自己資本比率等財務状況

セグメント変更について（2026年度より）

- ◆ 従来、売上計上法人別に地域セグメントを開示してきたが、事業運営がグローバルで行われている実態を踏まえ、医薬品事業単一セグメントに変更

（旧報告セグメント）

- 地域別セグメント（日本／北米／アジア）



（新報告セグメント）

- 医薬品事業（単一セグメント）

- ◆ これに伴い地域別情報は、従来の地域セグメント（売上計上法人別）から市場別で開示

～2025年度			2026年度～	
セグメント	連結グループ内 売上計上法人	市場	セグメント	市場
日本	住友ファーマ 住友ファーマプロモ	日本市場	医薬品	日本
		日本市場以外		
北米	SMPA (Sumitomo Pharma America, Inc.) SMPS (Sumitomo Pharma Switzerland GmbH)	米国市場		
		米国市場以外		
アジア	アジア子会社（～25年7月） 丸紅グローバルファーマ向け製品供給（25年8月～）	アジア市場		その他

セグメント変更に伴う連結業績への影響はありません

2026年度業績予想

2026年度 業績予想 (コアベース)

金額単位：億円

	2025年度 実績	2026年度 予想	増減		
			金額	うち 為替影響	%
売上収益	4,533	5,400	867	122	19.1
売上原価	1,964	2,450	486	35	24.7
売上総利益	2,569	2,950	381	87	14.8
販売費及び一般管理費	1,593	1,550	△43	34	△2.7
研究開発費	439	510	71	9	16.0
その他 (コア内)	523	20	△503		△96.2
コア営業利益	1,059	910	△149	44	△14.1
調整項目 (△：損)	14	△10	△24		
営業利益	1,073	900	△173		△16.2
金融損益	△70	△65	5		
法人所得税	△65	65	130		
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,069	770	△299		△27.9
ROE※	46.3%	20.3%			
ROIC※	22.8%	15.1%			

■ 売上収益

米国 (+846億円)
オルゴビクス、ジェムテサが引き続き伸長、
オルゴビクス販売マイルストーン (売上10億ドル達成) 収入を織り込む

■ 売上原価

関税や物価高騰のリスクを一定程度織り込み

■ 販管費

為替影響ありながらも減少

■ 研究開発費

オンコロジー品目の開発加速、
CNS品目も推進

■ その他 (コア内)

前期にアジア事業の一部譲渡益

※2026年度予想は2026年度実施の公募増資や有利子負債の返済を織り込んで算定

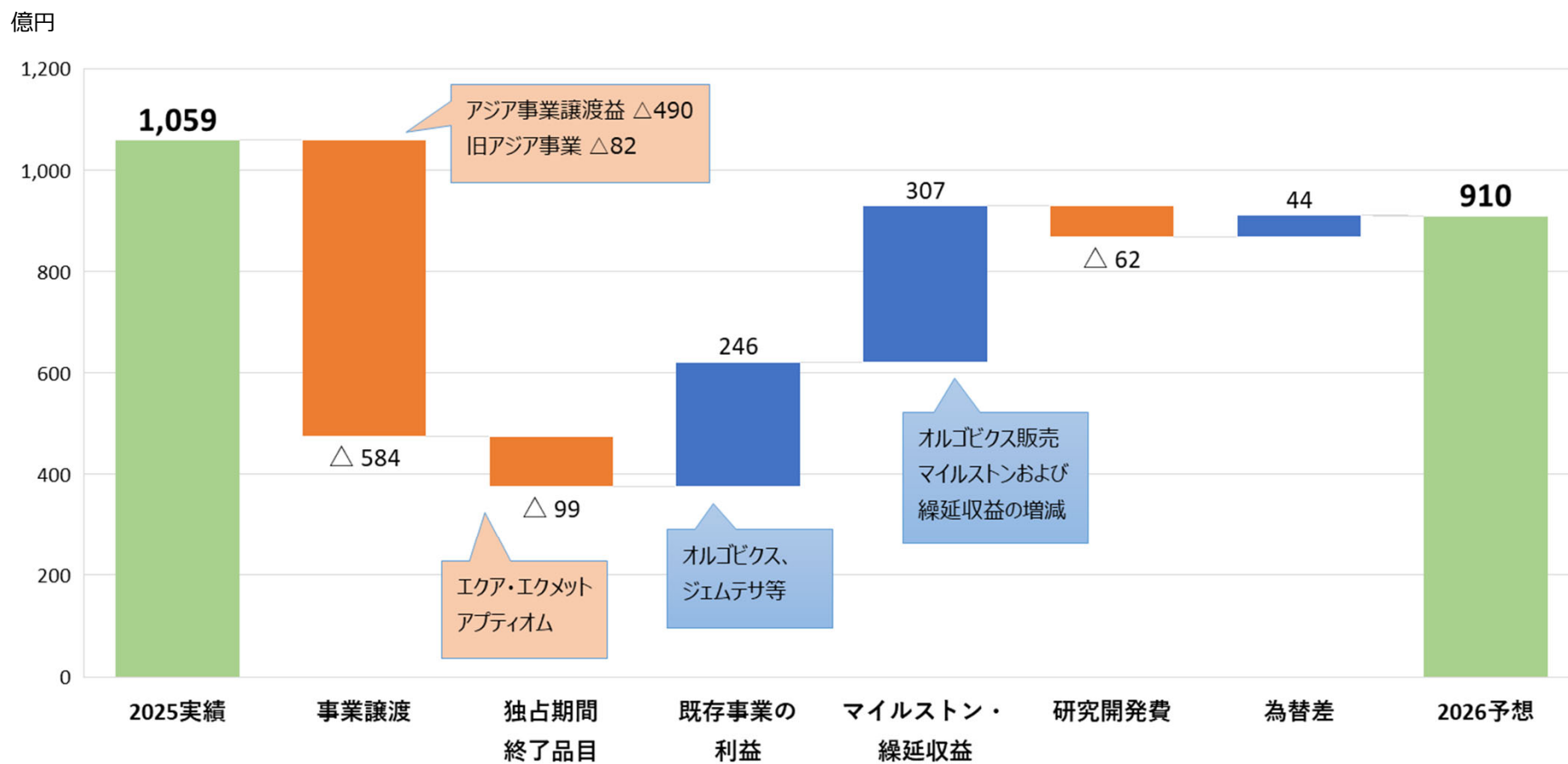
【為替レート】

2025年度実績：1\$ =150.67円 1元=20.12円

2026年度予想：1\$ =155.00円

2026年度業績予想

コア営業利益増減



2026年度業績予想

■主要製品売上収益（米国）

	2025年度 実績	2026年度 予想	前年 同期比	2025年度 実績	2026年度 予想	増減		
						金額	うち 為替影響	%
米国	百万ドル			億円				
オルゴビクス	1,029	1,354	325	1,550	2,099	549	59	35.4
マイフェンブリー	96	100	4	144	154	10	4	7.3
ジェムテサ	637	686	49	960	1,063	103	30	10.7
リサイミック	42	35	△7	63	54	△9	1	△14.2
アプティオム	99	35	△64	149	54	△95	2	△63.6
その他※	234	412	178	352	639	287	22	81.7
合計	2,137	2,622	485	3,218	4,064	846	118	26.3

- オルゴビクスおよびジェムテサは大きく伸長
- アプティオムは後発品の影響により減収
- オルゴビクスの販売マイルストーン収入を想定

※ 「その他」に含まれる提携収益

2025年度 実績	ファイザー社との提携に関する繰延収益	\$88M	2026年度 予想	ファイザー社との提携に関する繰延収益	\$65M
	オルゴビクスの販売マイルストーン (売上5億ドル達成)	\$100M		オルゴビクスの販売マイルストーン (売上10億ドル達成)	\$325M

【為替レート】
2025年度実績：1\$ =150.67円
2026年度予想：1\$ =155.00円

2026年度業績予想

■ オルゴビクス

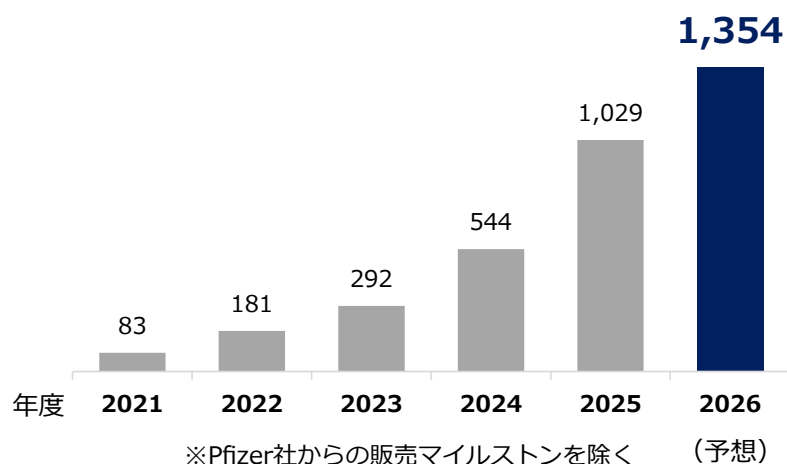
2025年度実績

期首予想	実績	前年同期比
\$710M	\$1,029M (達成率 145%)	約89%増



- 数量：メディケア患者の自己負担金額に関する制度変更を追い風に
昨年比で数量がほぼ倍増、期首予想比 +\$260Mの大幅過達
3月の新規患者数は過去最高を記録
- 価格：ペイヤーミックスの影響やクーポンの利用が想定を下回ったこと
などにより期首予想比+\$32Mの達成
【補足】 対修正予想 (\$1,020M) も達成

2026年度予想 (単位：\$M)



<営業戦略>

泌尿器科での更なる成長とオンコロジー専門医へのアプローチ強化による市場シェアのさらなる拡大

- 主要市場である泌尿器科・放射線科での成長を最大化するため、製品価値の継続訴求、学会に対するアプローチ、グループ購買組織を通じた戦略的活動を行う
- 成長余地の大きい腫瘍科における処方拡大のため、プロモーションの強化、学会に対するアプローチ、Dr to Dr施策、DTC広告などを行う
- メディケア患者の自己負担金額変更を生かした患者アクセス向上のため、医療関係者・ペイヤー・患者に対し制度変更の認知向上を図る

2026年度業績予想

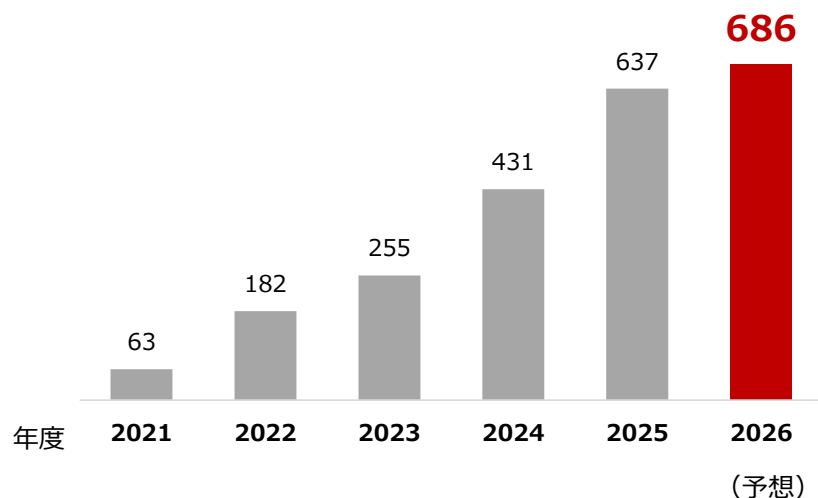
ジェムテサ

2025年度実績

期首予想	実績	前年同期比
\$572M	\$637M (達成率 111%)	約48%増

- 数量：拡大するβ3市場において、臨床的差別化の浸透により処方数・シェアが着実に伸長し、期首予想比 +\$27Mの達成
- 価格：ペイヤーミックスの影響などにより期首予想比 +\$40Mの達成【補足】対修正予想（\$588M）も大幅に過達

2026年度予想 (単位：\$M)



<営業戦略>

ジェムテサの臨床的差別化の訴求およびメディケアでのカバレッジ改善を通じ、市場シェア拡大に引き続き注力

- **OAB*1治療に対する期待値を高める**ため、ジェムテサの有効性・安全性を軸にした、OAB治療意義に関する医療関係者向けオンライン教育やアンバサダーを活用した患者向け情報発信を実施する
- **他剤と臨床的に異なることをより納得してもらう**ため、高血圧を有する患者やOAB+BPH*2の男性患者に対するプロモーションを強化する
- **製品価値に対するさらなる認知向上**ため、最新の保険カバレッジ状況を踏まえた医療現場全体に対する幅広いプロモーションを行う

* 1：過活動膀胱 * 2：前立腺肥大に伴う過活動膀胱

ジェムテサ

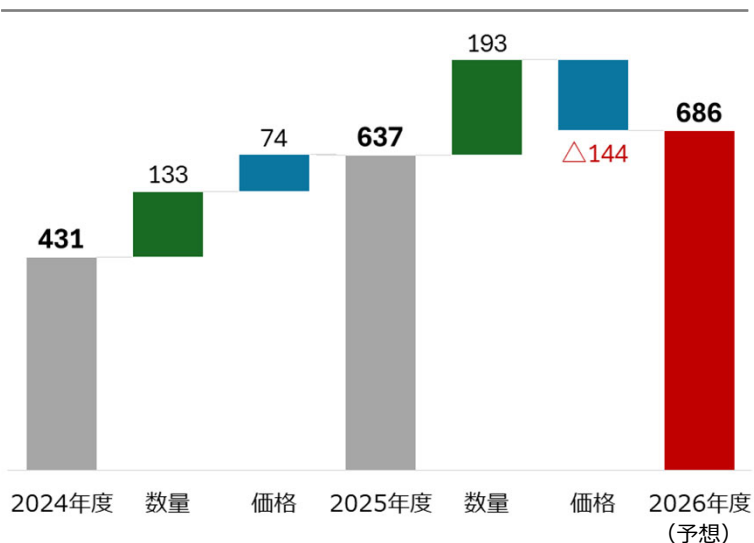
2025年度

- ✓ ペイヤーとの戦略的な交渉の結果、大手保険プランにおけるカバレッジが低下し、一時的に価格（GTN*1）が改善
- ✓ その期間もデマンドが堅調に推移したことで、一部保険プランではカバレッジが再開

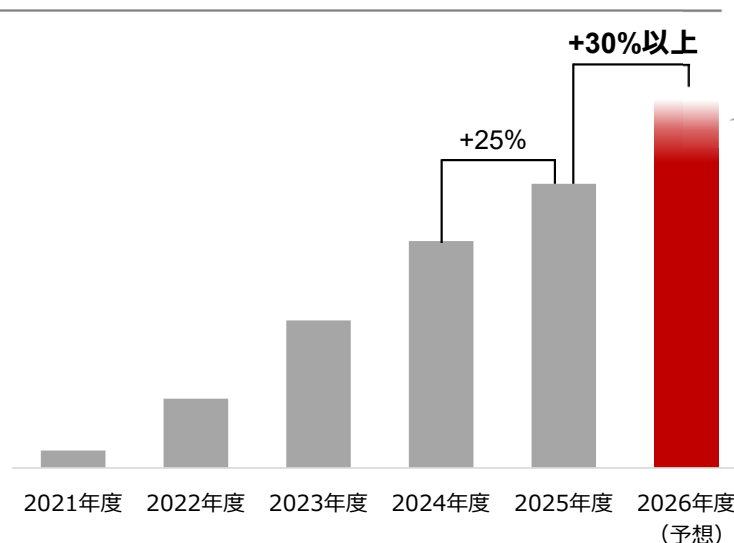
2026年度

- ✓ カバレッジ再開の影響を通年で見込むことやインフレ抑制法（IRA）の影響*2などにより価格（GTN）は悪化
- ✓ 一方、改善された患者アクセスを追い風にデマンドは力強く成長。売上1,500億円規模（2030年代）に向け基盤構築が進捗

過年度と2026年度予想の差異分析（\$M）



年度ごとの処方箋枚数推移*3



*1: GTN (Gross-to-Net) : 売上総額 (Gross Sales) から、リベート、ディスカウント、控除等を差し引いた調整率

*2: インフレ抑制法 (IRA) によりメディケアパートDの患者負担 (out of pocket) の上限金額が引き下げられるとともに製薬企業が負担するPhaseや割合も変更となった。小規模事業者にはこの適用に段階的な猶予期間が設けられている

*3: IQVIAからライセンスされた情報 (NPA for the period 4/1, 2021 to 3/31, 2026 reflecting estimates of real-world activity. All rights reserved.)

2026年度業績予想

地域別 売上総利益（コアベース）

金額単位：億円

		日本	米国	その他	合計
年 2 度 0 予 2 想 6	売上収益	876	4,064	460	5,400
	売上原価	521	1,527	402	2,450
	売上総利益	355	2,537	58	2,950

年 2 度 0 実 2 績 5	売上収益	834	3,218	481	4,533
	売上原価	437	1,232	295	1,964
	売上総利益	396	1,987	186	2,569

増 減 額	売上収益	42	846	△21	867
	売上原価	84	295	107	486
	売上総利益	△41	550	△128	381

日本

- ゼプリオン・ゼプリオンTRIにより増収を計画するが、製品構成により売上総利益は減益

米国

- 増収により売上総利益は増益

その他

- アジア事業の一部譲渡により減益

研究開発

研究開発

主な開発品目一覧（2026年5月13日現在）

2026年1月以降の変更部分は赤字で示しています

領域	一般名/コード名	作用機序等	予定適応症	開発段階
精神神経	DSP-0038	セロトニン 5-HT _{2A} 受容体アンタゴニスト、 5-HT _{1A} 受容体アゴニスト	アルツハイマー病に伴う精神病症状	フェーズ1
	DSP-0187	選択的オレキシン2受容体作動薬	ナルコレプシー	フェーズ1
	DSP-3456	代謝型グルタミン酸受容体 2/3 ネガティブアロステリックモジュレーター	治療抵抗性うつ	フェーズ1
	DSP-0378	γ-アミノ酪酸 (GABA) _A 受容体ポジティブアロステリックモジュレーター	進行性ミオクローヌスてんかん 発達性てんかん性脳症	フェーズ1
	DSP-2342	セロトニン 5-HT _{2A} 、5-HT ₇ 受容体アンタゴニスト	未定	フェーズ1
	DSP-0551	マルチイオンチャネルモジュレーター	パーキンソン病における振戦	フェーズ1
	CT1-DAP001/DSP-1083 (日本)	他家iPS細胞由来ドパミン神経前駆細胞	パーキンソン病	製造販売承認（条件及び期限付承認）を取得(2026/3) →製造販売後臨床試験準備中
	CT1-DAP001/DSP-1083 (米国)	他家iPS細胞由来ドパミン神経前駆細胞	パーキンソン病/医師主導治験・企業治験	フェーズ1/2
	HLCR011 (日本)	他家iPS細胞由来網膜色素上皮細胞	網膜色素上皮裂孔	フェーズ1/2
DSP-3077 (米国)	他家iPS細胞由来網膜シート	網膜色素変性	フェーズ1/2	
がん	enzomenib	選択的メニン阻害	急性白血病	フェーズ2
	nuvisertib	PIM1キナーゼ阻害	骨髄線維症	フェーズ1/2
	SMP-3124	CHK1阻害	固形がん	フェーズ1/2
	DSP-0390	EBP阻害	膠芽腫	フェーズ1
その他	KSP-1007	β-ラクタマーゼ阻害	複雑性尿路・腹腔内感染症、院内肺炎	フェーズ1
	fH1/DSP-0546LP	アジュバント添加スプリットワクチン	インフルエンザ予防	フェーズ1

臨床開発の主なトピックス（26年1月31日～5月13日）

● 精神神経領域

■ 他家iPS細胞由来ドーパミン神経前駆細胞（米国・日本）（RACTHERA社と連携）

- ・ パーキンソン病
日本で、2026年3月に製造販売承認（条件及び期限付承認）を取得（製品名：アムシェプリ）
5月13日開催の中央社会保険医療協議会において、保険収載価格案が協議予定
2026年中に製造販売後臨床試験を開始（詳細は21ページ）

■ 他家iPS細胞由来網膜シート（DSP-3077）（米国）（RACTHERA社と連携）

- ・ 網膜色素変性
米国食品医薬品局（FDA）から網膜色素変性の適応で、2026年3月にオーファンドラッグ指定を受領

■ ルラシドン（日本）

- ・ 統合失調症（製品名：ラツータ）
日本で統合失調症における小児の用法・用量追加に関する一部変更承認申請を実施

■ DSP-0551（日本）

- ・ パーキンソン病における振戦
フェーズ1試験の開始（詳細は22ページ）

■ DSP-0378（日本）

- ・ 進行性ミオクロームステんかん、発達性てんかん性脳症
フェーズ1試験（反復投与試験・薬物相互作用試験）の開始およびフェーズ1b試験における投与を開始

臨床開発の主なトピックス（26年1月31日～5月13日）

● がん領域

■ enzomenib（米国・日本）

- ・ 初発の急性白血病（KMT2A再構成、NPM1変異）を対象に、VEN/AZA*1および7+3*2との併用によるフェーズ1試験を開始

■ nuvisertib（米国・日本）

- ・ 2026年6月開催の欧州血液学会（EHA）にて、モメロチニブとの併用フェーズ1/2試験の途中解析データを発表予定
アブストラクトは2026年5月12日に公開済み

● その他領域

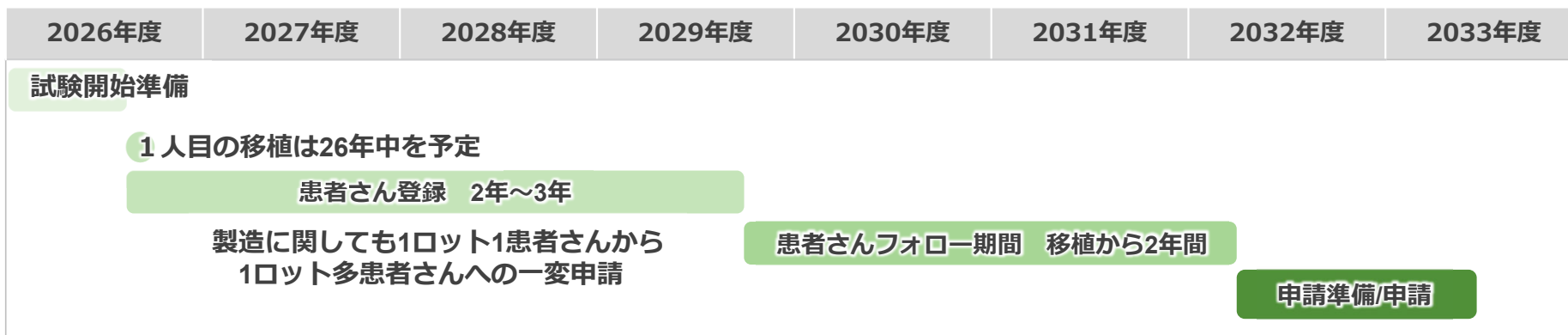
■ fH1/DSP-0546LP：ユニバーサルインフルエンザワクチン候補製剤

- ・ フェーズ1試験中間解析データ（A型インフルエンザ亜型に対する交差反応性）の公表（詳細は23ページ）

研究開発

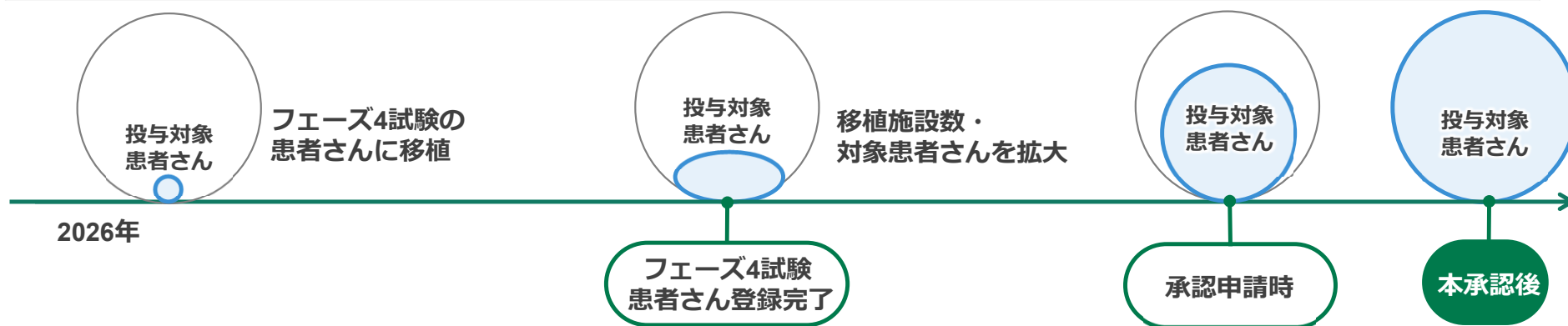
■ アムシェプリ 製造販売後臨床試験（フェーズ4試験）

- ✓ 開始予定時期：2026年中（7施設を予定。詳細、協議中）
- ✓ 登録患者数：18-65歳（30例）、30例の移植完了後に65歳超（5例）
- 2026-2029年：フェーズ4試験参加患者さんにのみ移植
- フェーズ4試験完了後、施設・対象患者さんを順次拡大



フェーズ4試験

施設・患者さんの
範囲の拡大

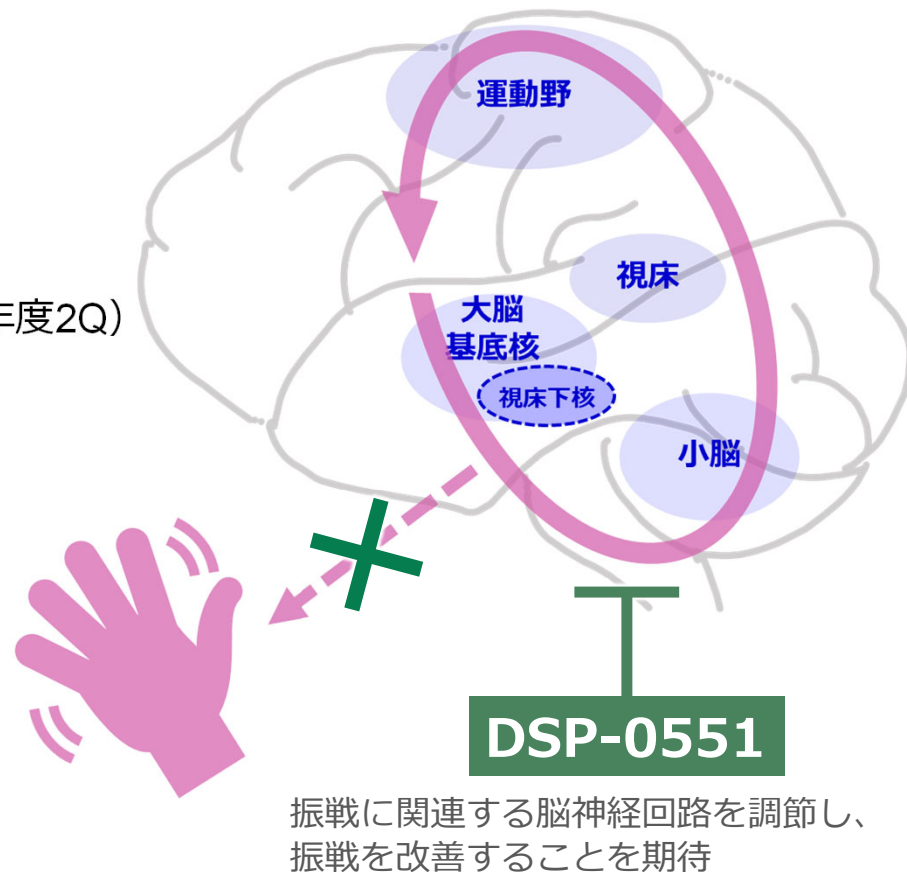


研究開発

■新規化合物の紹介：DSP-0551

- ✓ 対象疾患：パーキンソン病における振戦
- ✓ 起源：自社（フェノタイプ創薬により見出された化合物）
- ✓ 薬理的機序：マルチイオンチャネルモジュレーター
- ✓ 開発段階：フェーズ1（日本）（結果判明予定時期：2027年度2Q）
- ✓ 期待されるプロフィール：
 - 本剤は、振戦との関連が示唆されている複数のカルシウムイオンチャネルやナトリウムイオンチャネルに対する阻害作用を有する
 - 非臨床試験において、複数の振戦モデルでの強い薬効および広い安全マージンが認められており、パーキンソン病における振戦に対する新たな治療薬になることが期待される

振戦に関連する脳神経回路



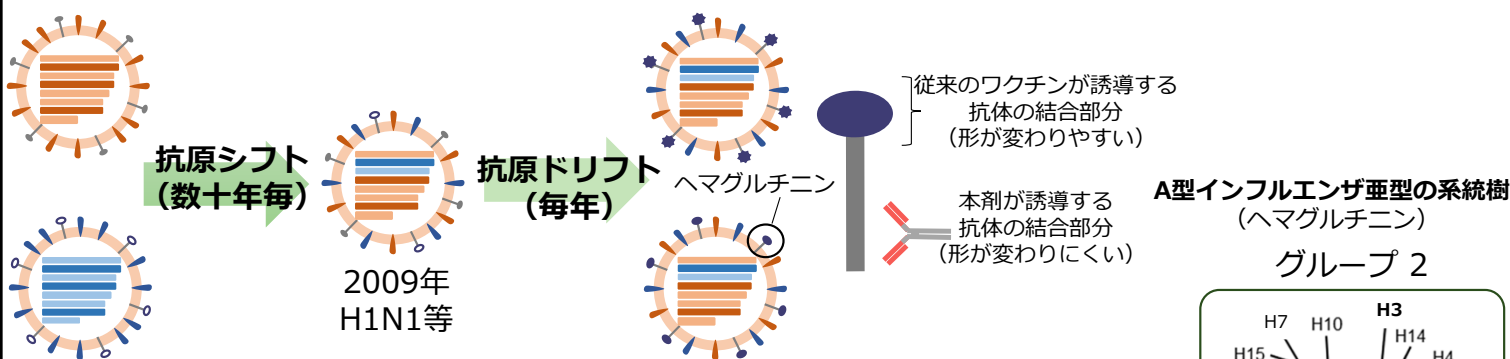
研究開発

感染症領域：fH1/DSP-0546LP ユニバーサルインフルエンザワクチン

本剤は、当社の自社技術基盤であるTLR7アジュバントを用いた開発品

フェーズ1試験の中間解析：A型インフルエンザの複数の亜型に対する交差反応性*1

変異を繰り返すA型インフルエンザウイルス



H1N1亜型

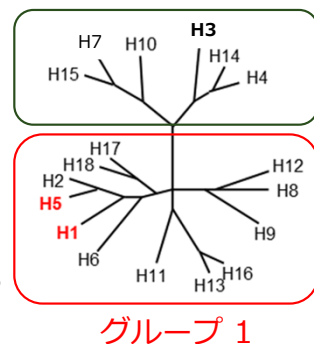
- 季節性インフルエンザウイルスとして毎年流行する
- 1918年 (スペインかぜ)、1977年 (ソ連かぜ)、2009年 (パンデミック) に大流行

H5N1亜型

- 高病原性鳥インフルエンザウイルスとしても知られており、動物間で感染が拡大している
- 1997年に初めてヒトへの感染が確認され、ヒトが感染した場合重症化しやすい

H3N2亜型

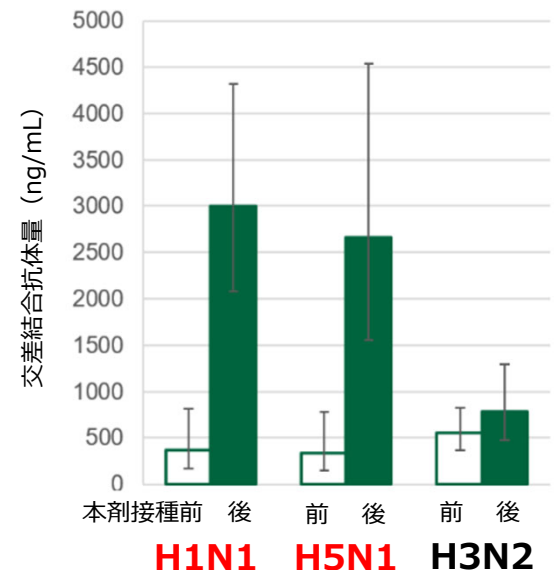
- 季節性インフルエンザウイルスとして毎年流行する
- 1968年 (香港かぜ) に大流行



LAH*2に対する抗体誘導

幾何平均値±95%信頼区間, N=12

fH1抗原 8 µg + DSP-0546LPアジュバント 5 µg



*1: 異なるウイルス亜型に対して広く免疫が働くこと。ユニバーサルワクチンの特徴となる

*2: 幅広いインフルエンザウイルスに共通する隠れた抗原領域の一つ

研究開発

■ 主な開発品：2026年度に予定している主なイベント（2026年5月13日現在）

領域	プログラム	1Q	2Q	3Q	4Q	備考
精神神経	DSP-0378 (進行性ミオクローヌステんかん、 発達性てんかん性脳症)				Initial POC*1 取得	
	CT1-DAP001/DSP-1083 (パーキンソン病)			(日本) 1例目移植*2		*2 製造販売後臨床試験
	DSP-3077 (網膜色素変性)		(米国) 1例目移植*3			*3 フェーズ1/2試験
がん	enzomenib (単剤、再発難治KMT2A変異陽性 急性白血病)		フェーズ2 中間解析症例 登録完了		フェーズ2 中間解析 Top Line Results	申請 (2027年度1Q)
	enzomenib (単剤、再発難治NPM1変異陽性 急性骨髄性白血病)		フェーズ2 登録開始		フェーズ2 中間解析症例 登録完了	
	nuvisertib (モメロチニブ併用、 初発および再発難治骨髄線維症)				フェーズ3 推奨用量の決定*4	*4 FDAとの協議を踏まえて決定
	SMP-3124 (単剤、固形がん)				フェーズ2 推奨用量の決定*4	
その他	fH1/DSP-0546LP (ユニバーサルインフルエンザ ワクチン)		1年間観察の最終結果*5		CHIS*6 試験開始	*5 1年間フォローの安全性データ、 抗体価の持続性、サブクラス 解析 (IgG2, IgG4)

*1: Initial PoC (Proof of Concept): 限られた症例数で、初期的に患者で有効性が確認されること *6: Controlled Human Infection Studies: ヒト感染チャレンジ試験

参考資料

<目次>

P.26	2025年度決算	経営成績（フルベース）
P.27	2025年度決算	財政状態およびキャッシュ・フロー
P.28	2025年度決算	セグメント別 経営成績（コアベース）
P.29	2025年度決算	ジェムテサの処方箋推移
P.30	2026年度業績予想	主要製品売上収益（日本）
P.31	研究開発	アムシェプリ 製造販売後臨床試験 1例目移植までのスケジュール（予定）
P.32	研究開発	2025年度の主なイベント／目標
P.33	研究開発	製品上市目標
P.34	研究開発	再生・細胞医薬事業 上市・開発品目一覧（RACTHERA社と連携）

参考資料（2025年度決算）

2025年度 経営成績（フルベース）

金額単位：億円

	2024年度 実績	2025年度 実績	増減	
			金額	%
売上収益	3,988	4,533	545	13.7
売上原価	1,534	1,964	430	28.0
売上総利益	2,454	2,569	115	4.7
販売費及び一般管理費	1,806	1,626	△180	△10.0
研究開発費	499	440	△59	△11.8
その他の収益・費用等	139	570	431	
営業利益	288	1,073	785	272.6
金融収益・費用	△112	△70	42	
税引前利益	176	1,003	827	469.8
法人所得税	△60	△65	△5	
親会社の所有者に 帰属する当期利益	236	1,069	832	352.2

参考資料（2025年度決算）

■ 財政状態およびキャッシュ・フロー

金額単位：億円

B/S	2025年3月	2026年3月	増減額
資産	7,426	8,046	620
その他の非流動資産	282	644	362
営業債権及びその他の債権	748	1,314	566
売却目的で保有する資産	304	0	△304
負債	5,731	5,121	△610
社債及び借入金	3,054	2,172	△882
繰延税金負債	266	158	△107
引当金	720	896	176
売却目的で保有する資産に直接関連する負債	35	0	△35
資本	1,695	2,925	1,230
うち親会社に帰属する持分	1,695	2,925	1,230
(親会社所有者帰属持分比率)	22.8%	36.4%	

C/F	2024年度	2025年度	増減額
営業CF	165	717	552
投資CF	998	225	△772
財務CF	△1,088	△913	176
現金及び現金同等物残高（期首）	290	231	△59
現金及び現金同等物残高（期末）	231	443	212

持分法で会計処理されている投資の増加

売上伸長による売掛金の増加等

借入金の返済

無形資産のグループ内譲渡に伴う繰延税金負債の取り崩し

売上伸長による引当金の増加等

前期：投資有価証券の売却による収入
当期：子会社の支配喪失による収入

前期：借入金の返済
当期：借入金の返済

参考資料（2025年度決算）

セグメント別 経営成績（コアベース）

金額単位：億円

		日本	北米	アジア	合計
実績 2025 年度	売上収益	924	3,379	230	4,533
	売上原価	501	1,374	88	1,964
	売上総利益	422	2,005	142	2,569
	販売費及び一般管理費	299	1,247	47	1,593
	コアセグメント利益	124	757	95	975
	研究開発費				439
	コア営業利益				1,059

実績 2024 年度	売上収益	998	2,518	472	3,988
	売上原価	518	908	106	1,532
	売上総利益	480	1,610	366	2,456
	販売費及び一般管理費	366	1,184	127	1,677
	コアセグメント利益	114	426	239	779
	研究開発費				485
	コア営業利益				432

増減額	売上収益	△75	861	△242	545
	販売費及び一般管理費	△67	63	△80	△84
	コアセグメント利益	9	331	△145	196
	研究開発費				△45
	コア営業利益				628

日本セグメント

- 減収による売上総利益の減少はあるものの、販売費及び一般管理費の減少により、コアセグメント利益は増益

北米セグメント

- 増収による売上総利益の増加の影響が大きく、コアセグメント利益は大幅に増益

アジアセグメント

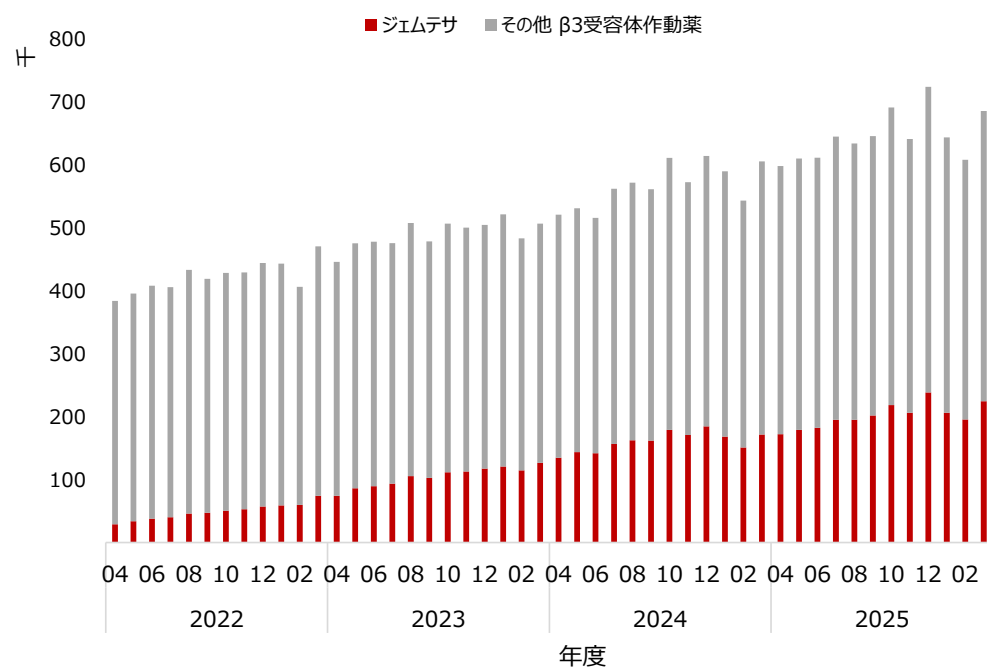
- 事業の一部譲渡によりコアセグメント利益は減益

参考資料（2025年度決算）

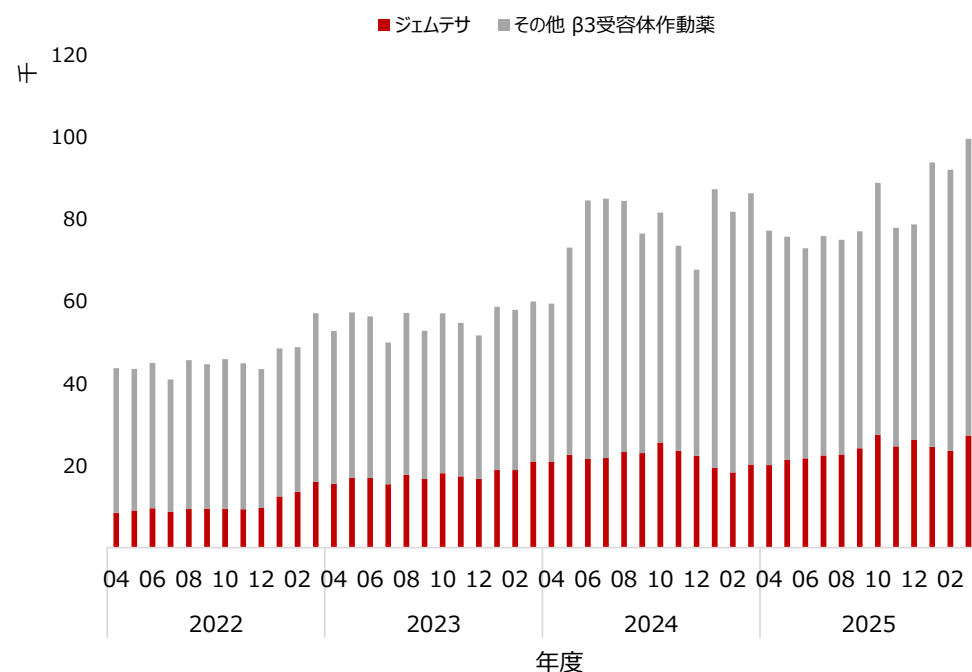
ジェムテサの処方箋推移

- 2024年4月のミラベグロン後発品の上市以降も総処方箋枚数・新規処方箋枚数は増加が続いている

総処方箋枚数 (TRx)



新規処方箋枚数 (NBRx)



参考資料（2026年度業績予想）

■主要製品売上収益（日本）

金額単位：億円

	2025年度 実績	2026年度 予想	増減	
			金額	%
日本				
ゼプリオン・ゼプリオンTRI	32	171	139	431.7
ラツーダ	137	136	△1	△0.8
ツイミーグ	106	119	13	12.5
メトグルコ	74	76	2	2.9
エクア・エクメット	87	—	△87	—
AG品	121	112	△9	△7.5
その他	276	262	△14	△5.2
合計	834	876	42	5.1

- ゼプリオン・ゼプリオンTRIを年間通じて売上計上
- ツイミーグは引き続き伸長
- エクア・エクメット販売終了

（注）各品目別の売上収益は、仕切価ベースで記載

参考資料（研究開発）

■ アムシェプリ 製造販売後臨床試験 1例目移植までのスケジュール（予定）

保険収載を経て、施設での治験審査委員会（Institutional Review Board（IRB））への申請・契約締結および採用活動等を推進

2025年度	2026年度								
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月



参考資料（研究開発）

2025年度の主なイベント／目標（2026年5月13日現在）

2026年1月以降の変更部分は赤字で示しています

精神 神経

- 他家iPS細胞由来製品（パーキンソン病：**アムシェプリ**）：日本での承認取得 ⇒ **条件及び期限付承認を取得(2026/3)**
- 他家iPS細胞由来製品（パーキンソン病）：米国でのフェーズ1/2試験の推進
- 他家iPS細胞由来製品（網膜色素上皮裂孔）：日本でのフェーズ1/2試験のランダム化パートの開始
- 他家iPS細胞由来製品（網膜色素変性）：米国での臨床投与の達成

がん

- enzomenibのフェーズ2試験の患者登録完了
- nuvisertibの単剤又はJAK阻害剤併用フェーズ1/2試験の推進
- SMP-3124のフェーズ1/2試験の推進
- 初期開発品の開発推進

その他

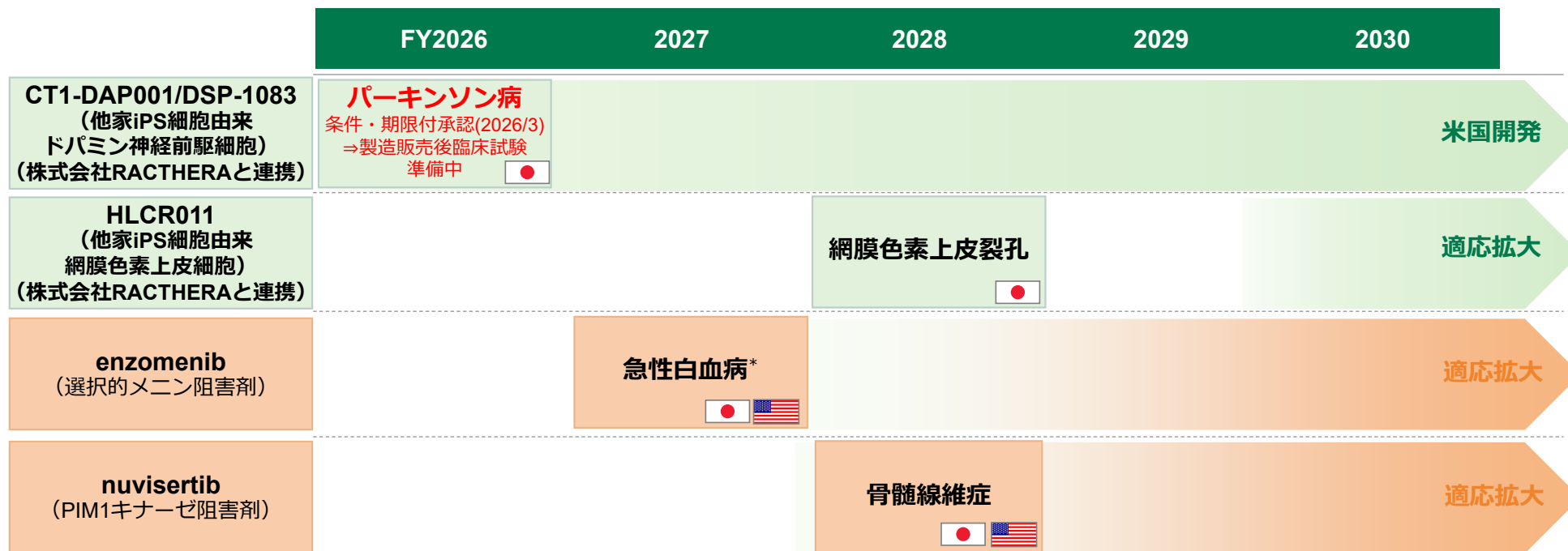
- ユニバーサルインフルエンザワクチンのフェーズ1試験の推進
- 初期開発品の開発推進

参考資料（研究開発）

製品上市目標（2026年5月13日現在）









■ 精神神経領域 ■ がん領域

2026年1月以降の変更部分は赤字で示しています



* 再発または難治性のKMT2A遺伝子再構成陽性の急性白血病またはNPM1遺伝子変異陽性の急性骨髄性白血病

再生・細胞医薬 上市・開発品目一覧（株式会社RACTHERAと連携）（2026年5月13日現在）

販売名/細胞種 開発コード	適応疾患	JP/ US	Pre-clinical	臨床研究	Phase 1/2	Phase 3	承認申請	承認→販売
リサイミック	先天性無胸腺症	US						
CT1-DAP001/ DSP-1083 (他家iPS細胞由来 ドパミン神経前駆細胞)	パーキンソン病	JP US			 4  5			 ¹ 日本で条件及び期限 付承認を取得 (2026/3)
HLCR011 (他家iPS細胞由来 網膜色素上皮細胞)	網膜色素上皮 裂孔	JP			 5			
DSP-3077 (他家iPS細胞由来 網膜シート)	網膜色素変性	JP US		 2	 5			
神経前駆細胞 (他家iPS細胞由来)	脊髄損傷	JP US		 3				
ネフロン前駆細胞 (立体臓器) (自家/他家iPS細胞由来)	腎不全	JP/ US						

1. 京都大学医学部附属病院 2. 神戸アイセンター病院 3. 慶應義塾大学病院 4. カリフォルニア大学サンディエゴ校 5. 企業治験

